

## クイーンズランド大学留学報告書

### ・留学先の概要

クイーンズランド大学の語学付属学校 ICTE で、General English のプログラムに参加した。このプログラムは1セッションが、5週間なので、1セッションだけ参加した。初日にレベル分けのテストが実施され、リスニング、ライティング、リーディングとスピーキングの試験を行った。今回の時期は、生徒のほとんどが日本の大学生であった。1クラス18人で、韓国人1人、中国人2人、サウジアラビア人3人、コロンビア人1人、残りが日本人だった。日本人以外は、長期で滞在しており、クイーンズランド大学のマスターを取るために、このコースを受けている人が多かった。結婚して子どもがいる人もいて、19歳から30歳までの人たちがクラスは構成されていた。

### ・留学先での授業内容

8:15~12:45の時間割で授業は平日に開講された。リスニングやリーディング、ライティングの授業を行った。担当の先生は3人おり、月曜日から水曜日は同じ先生で、木曜日と金曜日に他の2人の先生がそれぞれ授業を行った。授業では、4~5人のグループでテキストの内容についてのグループワークをすることがあり、授業中に英語を話すことが多かった。月曜日から水曜日の先生の授業では毎日宿題が出た。宿題の内容は、テキストの文法部分を解くことであったり、学校外でオーストラリア人に質問をすることであった。授業中に、映画や音楽の紹介が多かったので、それらの観賞も勧められた。最終週には、テストが行われた。スピーキングに関しては、その場で先生からフィードバックがいただけた。リーディングとリスニングの試験は最終日のクラスで答え合わせを行った。ライティングは返却もされなかった。

### ・留学先での課外活動

平日の午後と休日は時間が空くので、様々なことが出来た。学校の方でも料理教室や野外ライブなど、毎日イベントを用意してくれていた。私はスピーキングスキルを向上させたかったので、学校(ほぼ日本人)や市内にある図書館、ボランティア団体が開催する、Conversation Eventによく行っていた。語学学校で開催されるものは、10人弱の大人数での進行だったが、市内の図書館で開催される方は、4~5人の少人数で年代も様々だったので、面白かった。市内の方は週に4回開催され、参加者には韓国人が多かった。

他には寮でできた友達と観光やショッピングに行った。私はなるべく英語を話して過ごしたかったので、誘われたら積極的に参加した。休日は、ゴールドコーストやバイロンベイ、メルボルンに観光に行った。ブリスベンにはバスが発達しているので、どこに行くのにも移動が便利だった。



ビール工場見学

### ・留学から学んだことと、それを今後どのように活かしたいか

今回の留学で感じたことは、自分含めて授業中に日本人が英語をあまり話さないことだ。先生の問いかけにいつも答えるのは、コロンビア人やサウジアラビア人で、日本人は聞かれたら答えるといった感じだった。また、知らない単語があるときに、日本人は辞書を使って自分で解決するが、彼らは先生に聞いていたりして、英語を話すことに対する姿勢が異なると感じた。私も慣れてきてから、” teacher!” と声をかけることが出来るようになったが、それまでは、正しく伝えられるか自信がなくて、黙っていることが多かった。この姿勢が、リスニングが出来るようになって、スピーキングが向上しない要因だと痛感した。

今後は、英語を話す機会が圧倒的に減ってしまうが、毎日英語に関することを続けたいと思った。先生に、シャドウイングが効率的だと教わったので、それを続けて、今後より長期的な留学に臨みたいと思う。

### ・留学前の準備

留学情報の入手は、留学情報館のホームページで確認した。航空券は、早めに取ったほうが安い席が残っているので、3か月ほど前には予約した。ビザは、TASTEの説明会の時に担当者の方と確認しながら申請した。語学の勉強については、TOEICの対策本を中心に1か月ほど前から勉強した。

### ・留学費用

- ・航空券 約 19 万円

これは、LCC ではないためと、オーストラリアの前にニュージーランドに寄ったため。

- ・プログラム参加費 約 20 万円
- ・住居 約 13 万円

民間の学生寮(クイーンズランド大学の学生だけとは限らない)を選択した。ただ、セキ

セキュリティや施設の充実さを求めなければ、もっと安く滞在できる。シェアハウスを考える場合は、日豪プレスというサイトが便利らしい。

- ・保険料 約2万円

オーストラリアに着いたときに、ロストバゲージに合ったが、そのプランでは保険適用外だった。しかし、航空会社から補償をもらえるので、金銭面では特に困らなかった。

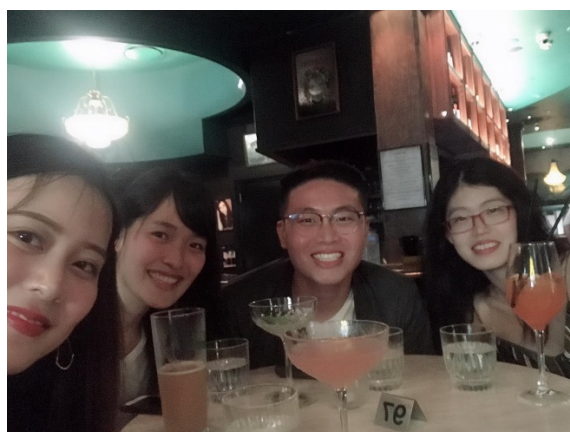
- ・奨学金 14万円

- ・生活費 15万円

自炊なので食費、メルボルン旅行費等観光の分、お土産含めて

### ・留学先での住居

留学先は、クイーンズランド大学も推奨していた Atira Student living という寮を選択した。ここの寮には、クイーンズランド大学以外の学生も住んでおり、中国人が多かった。申し込み方法は、メールで5週間だけ滞在できる所があるかを聞いて、やり取りをしていた。契約は、すべて英語だったため、時間がかかった。私は、1人部屋にしたが、部屋にエアコンはもちろん、家電、シャワーなど揃っていた。ホームステイをしていた友達の中には、部屋にエアコンがなく、夜寝付きにくかったと言っていた子も何人かいたので、エアコン付きの部屋で快適に過ごすことが出来た。特にキッチン周りは、湯沸かしポットやトーストマシーン、オーブンレンジなど充実していた。1人部屋の利点は、他の人に気を遣うことなく過ごせる点だと思う。ホームステイだと、食事の内容や量、シャワーの時間などを決められてしまい、不便に感じている人もいた。私は、1人でいることが苦ではないので、ホームシックになることもなかった。また、1人部屋でも、寮のイベントで知り合いを作ることができ、一緒に遊びに行くことも多かった。1人部屋の欠点は、自己管理(特に食事)がおろそかになることだと思う。3週間目あたりから、食事を作ることが面倒になり、抜くことが増えてしまった。



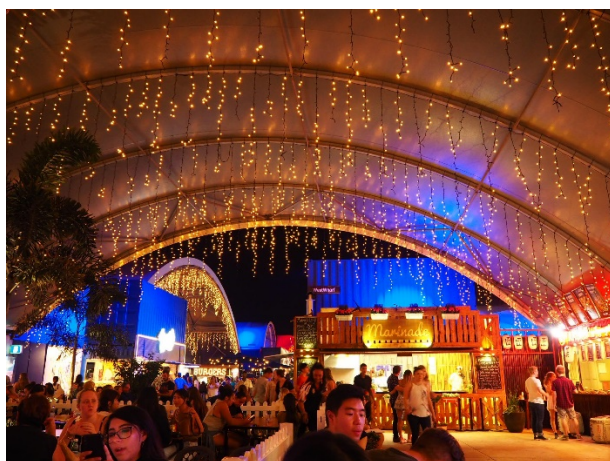
寮の人たちとジャズバー

### ・留学先で困ったこと

上でも述べたが、最も困った時は空港で荷物が出てこなかった時である。その時に、手荷物の中に、1日分の着替えや変圧器、充電器は入れておいた方が良かったと感じた。ホームページで荷物の追跡ができるのだが、翌日になっても荷物の在りかが不明だと表示されて、とても困った。幸い、オーストラリア在住の親戚が電話で航空会社と連絡を取ってくれたので、荷物の在りかといつ届くかがわかった。しかし、英語で電話ができないと、ホームページ上には荷物が行方不明と表示され続けたままだったので、気持ちが落ち着かないと思った。着替えに関しては、こちらの大学に通う友達に、安い衣料品店を教えてもらい、数日分を購入できた。

#### ・留学を希望する後輩へ

今回のプログラムは、日本人が多く、語学学校にいる間は日本にいるような気分になったが、日本人の友達が増え、帰国後の交流もしやすい。5週間いると、3週間ごろから英語の向上が少しずつ実感できると思う。また、オーストラリアは治安が良いので、夜でも町に遊びに行けて、学業以外の生活もとても充実するので、安心して過ごせると感じた。



週末に開かれる屋台